

新上里

No.249

2024年度
12月
議会報告

発行
日本共産党
上里町議員
生活相談は下記へ
くつざわ幸子
34-0644



五感を使った確かな学力の重視と豊かな放課後保育環境

12月定例議会は、5日から13日まで開会しました。町長提出議案は、専決処分（承認）の承認に伴う衆議院選挙費用1207万9千円（条例の一部改正2件、公共施設の指定管理者の指定（図書館及び郷土資料館の指定）、工事請負契約の変更（リバーサイドロードの築造工事費556万6千円追加）、補正予算3件と、最終日に追加として、犯罪被害者等支援条例制定、人事院勧告に準じた職員・町長等町三役と議会議員の給与に関する条例の一部改正と、補正予算7件が提案され可決されました。

12月議会の査沢幸子の一般質問

デジタル教科書 デメリット慎重に

くつざわ 今年度から導入された、教員のデジタル教科書の使用実態と検討状況は。

教育長 教員の活用は進んでおり、ほぼ毎日使用している。資料や写真の印刷など事前準備の負担軽減もある。全小・中学校のICT担当者を対象に情報交換を行っている。くつざわ ICT先進国のスウェーデンでは紙の教科書に回帰している。特に学習の基礎を学ぶ小学生は、五感を使った学びが大事です。児童・生徒用デジタル教科書はメリットの一方で、デメリットと指摘される視力や集中力の低下などは重大であり慎重に検討を。

教育長 令和6年度から英語、算数・数学を段階的に導入し、週二、三日活用している。話を聞いて、ノートにまとめて書くことや低学年は五感を使った教育を重要視することが大事と考える。

どの子も大切にされる放課後保育室

くつざわ 学校の余裕教室に移った長幡小・七本木の公設民営の放課後保育室は、常にテーブルが出ており、児童1人当たりおおむね1・65㎡以上の基準が守られているか。遊びの場、生活の場、憩いの場、静養の場としてどうか。

町長 面積の条件は満たしている。学校施設を利用できる条件があり、体育館や校庭も使っているが、クラブ室は、子ども達が息を抜けるホッとできる様な場所であること認識している。必要なスペースの確保に努めている。

子ども誰でも制度は慎重な検討を

くつざわ 「子ども誰でも通園制度」は、親の就労に問わず6カ月から3歳未満児の子どもの保育所等に預けられる制度です。子育て支援の目的は良いが、預けられる子、受け入れる保育士、通常保育児にも負担が大きすぎる制度です。26年度からの本格実施に向けた検討状況は。

町長 制度の導入が保育士の負担を増やし、保育の質の維持が課題となるなどの声も上がっている。

令和8年度実施に説明会参加や情報収集を行い、来年度に条例整備、実施施設との調整を行っていく。保育の質、子どもの安全を第一に丁寧に準備を進める。

公民館の交流スペースの確保を

くつざわ 福祉老人センターのリクレーション部分は「身近な公民館の利用を」と言うが、複合第1館の長幡公民館の交流スペースは、待合所程度です。高齢者が自由に交流を楽しめるスペースをどのように確保するのか。

町長 公民館には交流フロアがある。それ以外でも、会議室やホールも空いていれば御利用頂ける。広報や公民館だより等で周知していく。

加齢性補聴器購入制度の実現を

くつざわ 加齢性難聴者への補聴器購入補助制度は、20年3月、24年3月に続き3回目の質問です。高齢者の難聴は防げないため、補聴器を使い聞かせる状態を維持することが大事と言われています。県内では15自治体に補聴器購入補助制度が広がっている。

町長 町の検討状況は。町長 補助制度を実施する場合には医師の協力を仰ぎ、スムーズな申請が出来るよう調整し、前向きに検討していく。

駅北まちづくりの現状は？

くつざわ 今年度、4857万9千円の駅北まちづくり事業と大型商業施設跡地等進捗状況と方向性は。

町長 詳細は全員協議会で説明したい。大型商業施設跡地のポテンシャルの高さを認識しており、計画に見合う施設の誘致を目指している。今不足しているのはデジタル人材だ。専門学校など教育機関の可能性も含め情報収集と検討をしている。

二つの意見書採択

12月議会では、学費値上げを中止し、値下げし「学費ゼロ」を求める意見書と選択的夫婦別姓制度の導入を求める意見書を石井・伊藤・猪岡・植原議員の賛同を得て提出することが出来た。この二つは、衆議院選挙において、共産党以外にも多くの政党が公約していた問題でもあり、切

実な課題でした。声を上げることで実現する可能性が生まれています。提案後の質疑は、斎藤議員からは、「大学の進学率は100%に近い、お金があるから行くのではないのか」高橋勝利議員からは、「夫婦はよいが、子どもの姓は悩むのではないか」など、沢山の質問がありました。採択されました。

県にも意見書提出

美里町議会の要請を受け、議会運営委員長が提出者、全議員が賛同者となり、県知事への意見書「美里町の埼玉県議会議員選挙区を北第3区から第2区に戻すことに関する意見書」を提出すると同時に、今回は、県議会各会派にも同様の要望を提出することとしました。

意見書名	提案者	賛同者	反対
学費値上げを中止し、値下げし「学費ゼロ」を求める意見書	査沢	伊藤・猪岡・植原	石井・斎藤・高橋仁・黛
選択的夫婦別姓制度の導入を求める意見書	査沢	石井・伊藤・猪岡・植原	金子・高橋勝利・斎藤・高橋仁・黛

少子高齢化や財源など、将来を見据えた「まちづくり」議論を！

駅北まちづくり事業について町から説明

査沢の駅北まちづくりについて一般質問において、「全員協議会で詳細に説明する」と答弁があったとおり、会期中の全員協議会で「駅北まちづくり事業」の説明がありました。

24年度駅北まちづくり事業の予算は、下記の4事業合計で485万9千円で、7万9千円です。賑わいを取り戻し歩みを楽しめる町なかの再生をめざし、①駅前通り（停車場線）の拡幅とクラシック解消、②駅北東通り線の拡幅整備、③神保原駅舎の橋上化の検討を行っています。

24年度・駅北まちづくり事業委託料（単位：千円）	
事業名	予算額
駅北まちづくり推進業務委託料	17,303
駅北東通り線調査設計業務委託料	10,964
駅北東通り線詳細設計業務委託料	9,978
神保原駅南北自由通路調査設計業務委託料	10,334

駅前通り線はクラシックの解消を優先

駅前通りの道路線形は、地元権者の協議では、西側拡幅と東西両側拡幅を求める声が多く、県には、地元の意見を伝えながらクラシックの解消を優先するよう要望したとのこと。

駅北東通り線の整備は10年の見通し

駅北東通り線は、「道路整備をする」ことで土地のポテンシャルを上げる」として、いますが、駅のロータリーとの関係があり、整備期間は約10年のこと。

橋上駅舎は、期間も財源も莫大に！

駅自由通路の調査結果は、耐震・耐久性は不足でした。同時に検討していた駅の橋上化については、3案が示され、既存の自由通路を補強し、北側に橋上駅舎を新設し、跨線橋につなぐ案で、令和4年度試算の概算工事額として約21億6千万円を採用したいとのこと。費用面と自由通路等を段階的に整備できる為としています。自由通路は補強工事が必要であり、雨をしのぐ屋根は重量の関係で、片持ち柱タイプか門型柱タイプの考えが示されました。こちら



住み続けたい町…優先すべきは何か？

一方で、町の「駅北まちづくりビジョン」は、駅北の人口密度は1人あたり20人程度に減少を予想し、現在も町内空き家の3分の1が駅北に集中しています。こうした人口減少、高齢化を考慮しながら事業の優先順位は、停車場線のクラシック解消、次いで停車場線の拡幅、中長期的に賑わいの課題を上げています。道路整備をしている間も、賑わいを継続する取り組みが必要としていますが、いずれにしても、非常にお金も期間も掛かる大事業になります。

神保原駅の1日当たりの乗客数は、2486人です。駅を利用する南側の方にとって、橋上化を望む声はあると思います。

しかし、町の2024年度一般会計は約107億5千万円です。今後の人口減少と高齢化が進む中で、医療・介護・福祉費の増大が予想されます。将来を見据え、町民の多くが納得できるまちづくりには知恵を出す時ではないでしょうか。



条例制定

犯罪被害者等支援条例が制定されました。条例に伴い、今後は適切な相談や支援体制がとられ、また、見舞金として遺族見舞金30万円、障害見舞金10万円が明記されました。

5年間の図書館等の指定管理者決定

今年度末で終了する図書館及び郷土資料館の指定管理を引き続き、シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社指定することを全会一致で可決しました。指定期間は、令和7年4月から12年3月末日までの5年間。契約金額は、2億9199万5千円です。

町が指定のメリットとする経費節減は、働き方改革が進めば無くなるべきものです。一方で、デメリットとする、継続性や安定性の喪失は、重大な問題が生じると指摘しました。町は、この先については検討すると答弁しました。

査沢は、指定管理の全てに反対ではありませんが、教育・医療・福祉施設等の指定には賛成できません。

職員等の給与等改正

条例の一部改正は、人事院勧告に準じた、一般職員及び会計年度任用職員の月例給は、

2・76%と3年連続の引上げとなりました。給与支給額とそれに伴う共済費支給の合計は、約2323万6千円。賞与分（期末手当・勤勉手当）0・1カ月引上げによる増加額は、約1741万3千円です。また、賞与分の町三役の影響は、約23万1千円、議会議員は、約37万6千円です。条例改正後、一般会計を含む7会計の補正予算も可決しました。

議長選挙を実施

12月10日、議長・副議長選挙が実施され、基本条例に基づき初めて志願者の所信表明も行われました。選挙結果は、下記のとおりです。議長は同数によりくじ引きで飯塚議員に、副議長は金子議員に決定しました。査沢は白票を投じました。

議長	飯塚6票、戸矢6票	白票1
副議長	金子6票、高橋仁5票	白票2

上里町議会の議長等の選挙は、長年1年交代でしたが、常任委員会等の任期に合わせ近年2年交代が定着しつつありました。しかし、5月実施が常であり、委員会の任期に合わせることで、継続した委員会の活動が保障されてきました。5月に言わずに、その後「2年交代が暗黙の了解」と言うのは疑問です。表明し、どおりの議会運営を望みます。